

教員免許等の資格取得を目指す学生のアイデンティティと特徴

Characteristics of college students who aim to obtain a certain job license

森 恭子・後藤 和史

愛知みずほ大学人間科学部人間科学科

Kyoko Mori ・ Kazufumi Gotow

Department of Human Sciences, Aichi Mizuho College

This study focused on characteristics of college students who aim to obtain a certain license such as teacher's certificate in terms of identity status and Synthetic House-Tree-Person Test (S-HTP). 65 first-year college students who aim to obtain a certain job license were assessed by Identity Status Questionnaire (Kato, 1983) and Synthesized House-Tree-Person Test (S-HTP; Maruno et al., 1975). Two-step cluster analysis found that S-HTP pictures were categorized into four clusters (simple type, hiding type, decorated type and coordinated type). It is found that students who aim to be a gymnastic teacher associated with simple type of S-HTP, to be a Yogo teacher (school nurse) with decorated type of S-HTP and identity foreclosure status, to obtain a certificate of psychology with identity achievement status. These findings suggested future needs for supports to students' career development along with ego-identity development.

Key Word: ego-identity ; identity status; S-HTP; job license

I. 問題と目的

青年期においては、アイデンティティを獲得することが重要な発達課題となる。アイデンティティとは Erikson, E. H の人格発達理論における心理的社会的概念を示すもので、「自分は何者か」「自分は何ができるのか」などの問いに答え、社会の中に自らの位置を見出すことが求められる。社会に出る前にそのような課題と向き合うために、青年は社会からの責任や義務を免除される心理社会的モラトリアム期間を与えられる。大学生はまさにモラトリアム期間にあり、勉学とともに自らの生き方を模索することが大きな課題となる。

大学は「研究をより広い観点から見た『学術』を育

む場、同時に若者を育成する場」(横山, 2008)¹⁾である。すなわち、大学は社会からある程度距離を置き、自由に自己を探求する時間と教養としての学術を学生に与え、学生は自由な時間の中でキャンパスライフを満喫しながら、様々な体験を重ねたり、多様な学術を学んだりしながら、自らの方向性を見出して大人へと変容していくと考えられる。

しかし、バブル経済崩壊後の不況が続く中で、日本社会はすべての面で切迫し、青年を育てる余裕さえ失っているのではないか。企業が採用時に新卒者に求める資質に関して経済同友会が行った調査では、「熱意・意欲」や「筆記試験の成績」を重視する企業が減少し、

説明能力や適性を測る試験の結果を重視する企業が増加している。「人材育成の余裕を失い、即戦力を求める採用側の傾向が浮き彫りになった」(毎日新聞)²⁾と書かれている。このような不安定な社会の中で、若者が焦りを抱くのは当然であり、それに伴い大学も「レジューランドから就職予備校へ」(片桐, 2009)³⁾と変化している。大学はのんびりと青春を謳歌する場所ではなくなり、学生は3年生から始まる就職活動に支障がないよう準備万端整える場となってきた。つまり、大学で時間をかけて試行錯誤しながらアイデンティティを模索することは困難になっている。

不況の影響は大学進学にも影響が及んでいる。河合塾の「第3回全統マーク模試からみた受験生の志望動向」によると、2011年度の入試では「景気の低迷」「就職環境の悪化」が受験生の学部・学科選択に大きく影響し、医療系、教員養成系等の「資格系学部」の志望者増加が著しいと言う⁴⁾。

本学でも養護教諭、保健体育教員の免許、社会福祉士、精神保健福祉士、医療事務、学芸員、心理関係の資格取得を目指して入学する学生が増加している。その理由として、前述したように社会、経済情勢の変化に伴い、就職事情が厳しくなっていること、日本の終身雇用制度や年功序列制度の崩壊に伴い、キャリアデザインは自己責任となってきたことが考えられ、手に職をつけたり、資格を取得することが重視されるようになったことが考えられる。また、仕事に生きがいを求める傾向が強く見られ、そのために資格取得を目指す学生も多い。さらに、学生だけではなく、保護者も資格取得を重視する傾向がみられる。

大学は資格取得を目指す学生のニーズに応えるように、教育、指導、支援をしていくことが求められている。今まで本学では教職担当の各教員が教育、指導、支援を担うとともに、小規模大学の利点を活かして、チューターを中心に個々の学生にアプローチしてきた。しかし、大学全体としてどのように学生を育てて卒業させていくのかという視点からの取り組みは、まだ十分に機能していないと考えられる。今後、どのような取り組みを行っていくかについて大学全体で考える必要があり、そのためには、まず、学生のニーズや特徴を把握していくことが重要である。

そこで、本研究では各資格を志望する学生の特徴を把握することを目的として、アイデンティティや性格特徴の面から検討した。アイデンティティには、職業アイデンティティが大きな位置をしめているので、資格、職業を選択する際の過去の状況や現在の資格、職業への希求の強さが把握できると考えた。さらに、統合的HTP(以下S-HTP)を実施し、性格特徴について検討した。

アイデンティティ感覚とS-HTPとの関係を検討した研究(青山ら, 2006)⁵⁾はあり、職業に対する価値意識と自我同一性の関係を検討した研究(宮下ら, 1991)⁶⁾もある。また、養護教諭志望者については、志望動機と養成科目への関心度に関する研究(下村, 2010)⁷⁾、ジェンダー意識に関する研究(池上, 2008)⁸⁾がある。さらに、教員養成学部生の進路選択に対する自己効力(白尾ら, 2005)⁹⁾に関する研究もある。しかしながら、資格志望によるアイデンティティおよび性格特徴に関する研究は、これまで行われていない。

II. 方法

本学の1回生65名を調査対象とし、アンケート及び同一性地位判定尺度、S-HTP法を実施した。アンケートでは、取得したい資格、その資格を志望した時期、理由を記入してもらった。

アイデンティティを測定する尺度としては、同一性地位判定尺度(加藤, 1983)¹⁰⁾を用いた。この尺度は「現在の自己投入」「過去の危機」「将来の自己投入の希求」の各4項目計20項目から構成され、3つの変数を用いて同一性地位を判別するものである。その結果は①同一性達成地位、②権威受容地位、③同一性達成-権威受容中間地位、④積極的モラトリアム、⑤同一性拡散地位⑥同一性拡散-積極的モラトリアム中間地位の6つの同一性地位に分類される。

S-HTP法はBeck, J. N.が1948年に考案したHTP法(House-Tree-Person technique)を丸野・徳田ら(1975)が、発展させた描画テストである。HTP法では家屋、樹木、人物を3枚の用紙にそれぞれ描くが、S-HTP法では1枚の用紙に家屋、樹木、人物を描く技法である。S-HTP法の施行は、三上(1995)¹¹⁾が提唱する用紙、教示を用いて行った。S-HTPの評定は三上(1995)¹²⁾・三沢(2002)¹³⁾・青木ら(2006)¹⁴⁾を参考に、①全体的評定項目、②人物に関する評定項目、③家屋に関する評定項目、④樹木に関する評定項目、⑤人物と家屋の関係に関する評定項目、⑥人物と樹木の関係に関する評定項目の6種、計79項目について実施した。

III. 結果

1) S-HTPのクラスタリング

S-HTPについて、個別の評定項目を繰り返し検討するよりも、総合的・全般的に理解することのほうが心理臨床実践として現実的であり、繰り返し検定による第1種の過誤を防ぐという統計学的要求のためにも重要であると思われる。そこで、S-HTPの各評定項目をターゲットとしたtwo-stepクラスタ分析を行った。その結果、適応度指標であるAICが最低値(最適値)で

あり、かつ解釈可能であった4クラスタ解を最終的に採用した。

第1クラスタ(n=14)は、(1)地面を媒介として各要素が統合している、(2)家の描画に歪みがあり、ドアや窓がない、(3)記号化された

(「○」で頭を、「大」で胴体と手足を描いたような)人物画、が他のクラスタと比較して有意に多かった。クラスタリングされた実際の描画作品を検討すると、課題が要求する最低限の要素を羅列的に並べて描いた内容が多い印象が強かった。そこでこのクラスタを「単純型」と命名した。

第2クラスタ(n=13)は、(1)不完全な、顔が描かれない人物像、(2)人と木との間に何らかの関連があること、が有意に多かった。実際の描画作品を検討すると、描画領域が小さく、人物像が記号化された線画ではないものの顔を描いておらず、自己評価の低さを示唆するような防衛的な(しかし洗練されていない)印象の描画内容であった。そこで、このクラスタを「隠蔽型」と命名した。

第3クラスタ(n=18)は、(1)課題以外の付加物として草花や太陽を描く、(2)家に煙突を付加すること、が有意に多かった。実際の描画作品を検討すると、遠近感の少ない平面的な描画に、用紙を埋めるかのように付加物を追加したような印象の描画内容であった。そこでこのクラスタを「装飾型」と命名した。

第4クラスタ(n=12)は、(1)中程度以上の遠近感、(2)複数線で構成、(3)道・動物を描く、(4)人物像が4頭身以上(頭が小さい)こと、が有意に多かった。実際の描画作品を検討すると、他のクラスタと比較して描画の構成度が高く、中には葛藤のテーマが描画に表現されていると直感できる内容のものも見られた。そこで、このクラスタを「統合型」と命名した。

これらの結果を以下の分析・議論で用いるときは「S-HTPクラスタ」と記述する。

2) 同一性地位のクラスタリング

同一性地位判定尺度については、オリジナルに基づいて各下位尺度得点を算出した。同一性地位の判定基準はオリジナルに基づくと、中間群が多くなりすぎ先行研究に基づいた議論を行うのが難しくなる。そこで本研究では、下位尺度をz得

表1 同一性地位クラスタのクラスタ重心

		現在の自己投入		過去の危機		将来の投入希求	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
同一性地位 クラスタ	同一性達成群	2.086	0.247	0.558	0.697	1.460	0.745
	モラトリアム群	-0.273	0.594	0.731	0.752	0.410	0.722
	早期完了群	0.915	0.586	-0.909	0.965	-0.440	0.875
	同一性拡散群	-0.715	0.442	-0.705	0.321	-0.593	0.580

点化したものをターゲットに two-step クラスタ分析を行うこととした。分析の結果、BIC や AIC などの適合度指標の推移や解釈可能性を総合して4クラスタ解を採用した。クラスタ重心を表1に示す。第1クラスタ(n=6)は、すべての得点が高いことから「同一性達成群」、第2クラスタ(n=23)は、「過去の危機」が高く、「将来の投入希求」がやや高いことから「モラトリアム群」、第3クラスタ(n=9)は、「過去の危機」が低いものの「現在の自己投入」が高いことから「早期完了群」、第4クラスタ(n=17)は、すべての得点が低く「同一性拡散群」と命名した。これらの結果を以下の分析・議論で用いるときは「同一性地位クラスタ」と記述する。

分析で得られた同一性地位クラスタの妥当性を検討するために、資格取得決定時期を中学校までと高校以降との2群に分割し、同一性地位クラスタとのクロス表を作成した(表2)。カイ二乗検定およびFisherの正確確率法を行った結果、関連が有意傾向($\chi^2=7.287$, $df=1$, $p<.10$; Fisher's exact $p=.0792$, $p<.10$)であり、続く残差分析によって、早期完了群において小学生・中学生時期に取得資格を決定していた者が有意に多く、資格取得決定時期が有意に早いことが見出された。

3) 取得志望資格の決定時期

取得志望資格によって、決定する時期が異なるかどうかを検討するために、決定時期を中学校までと高校以降との2群に分割して各資格とのクロス集計を行い、カイ二乗検定を行った。その結果、他の資格では決定時期に有意な関連は見られなかったが、養護教諭については取得決定時期が有意に早いことが見出された

表2 同一性地位クラスタと資格取得決定時期との関係

		同一性地位クラスタ				合計	
		同一性達成	モラトリアム	早期完了	同一性拡散		
決定 時期	小学生	度数	0	4	5	4	13
	中学生	調整済み残差	-1.5	-1.1	2.3	.4	
	高校生	度数	6	19	4	10	39
	以降	調整済み残差	1.5	1.1	-2.3	-.4	
	合計	度数	6	23	9	14	52

($\chi^2=8.750$, $df=1$, $p<.01$; 表3参照)。

4) 取得志望資格と同一性地位との関連

取得志望資格と同一性地位との関連を検討するために、第一に、取得志望資格の有無による2群の同一性地位判定尺度の各下位尺度の平均値の差異をt検定を用いて検討した。その結果、「過去の危機」について、(養護教諭免許に加えて)保健科教諭免許取得を志望する群は非志望群と比して有意に平均値が低く($t=-2.221$, $df=53$, $p<.05$)、心理系資格取得を志望する群は非志望群と比して有意に平均値が高かった($t=3.145$, $df=53$, $p<.01$)。その他の資格、下位尺度については有意な平均値の差は得られなかった。

第二に、同一性地位クラスタと取得志望資格とのクロス表に対してカイ二乗検定およびFisherの正確確率法による分析を行った結果、心理系資格について有意な関連がみられた($\chi^2=11.451$, $df=3$, $p<.01$; Fisher's exact $p=.0107$, $p<.05$; 表4参照)。残差分析の結果、心理系資格取得を志望する群は同一性達成群が有意に多く、同一性拡散群が有意に少ないことが見出された。その他の資格については有意な関連は得られなかったが、養護教諭については残差分析の結果、早期完了群が多い傾向($p<.10$)が見られた(表5)。

5) 取得志望資格とS-HTPの描画特徴との関連

取得を志望する資格によってS-HTPの描画特徴に違いがみられるかを検討するために、第一に、取得志望資格とS-HTPクラスタとのクロス表に対してカイ二乗検定およびFisherの正確確率法による分析を行った。その結果、他

表3 養護教諭の志望決定時期

		養護教諭		合計	
		志望なし	志望あり		
決定 時期	小学生	度数	7	10	17
	中学生	調整済み残差	-3.0	3.0	
	高校生	度数	36	9	45
	以降	調整済み残差	3.0	-3.0	
合計		度数	43	19	62

表4 心理系資格取得志望の有無と同一性地位クラスタとの関連

		同一性地位4クラスタ				合計
		同一性達成	モラトリアム	早期完了	同一性拡散	
心理系 資格	志望なし	度数	3	18	9	17
		調整済み残差	-2.6	-1.3	1.4	2.0
	志望あり	度数	3	5	0	0
		調整済み残差	2.6	1.3	-1.4	-2.0
合計		度数	6	23	9	17

表5 養護教諭取得志望の有無と同一性地位クラスタとの関連

		同一性地位4クラスタ				合計
		同一性達成	モラトリアム	早期完了	同一性拡散	
養護 教諭	志望なし	度数	5	17	4	12
		調整済み残差	.8	.7	-1.7	.2
	志望あり	度数	1	6	5	5
		調整済み残差	-1.8	-1.7	1.7	-2
合計		度数	6	23	9	17

表6 保健体育教員免許取得志望の有無とS-HTPクラスタとの関連

		S-HTP4クラスタ				合計
		単純型	隠蔽型	装飾型	統合型	
保健 体育	志望 なし	度数	7	11	16	12
		調整済み残差	-3.4	.4	1.1	1.9
	志望 あり	度数	7	2	2	0
		調整済み残差	3.4	-1.4	-1.1	-1.9
合計		度数	14	13	18	12

表7 養護教諭免許取得志望の有無とS-HTPクラスタとの関連

		S-HTPクラスタ				合計
		単純型	隠蔽型	装飾型	統合型	
養護 教諭	志望 なし	度数	14	10	9	6
		調整済み残差	2.9	.8	-2.0	-1.5
	志望 あり	度数	0	3	9	6
		調整済み残差	-2.9	-1.8	2.0	1.5
合計		度数	14	13	18	12

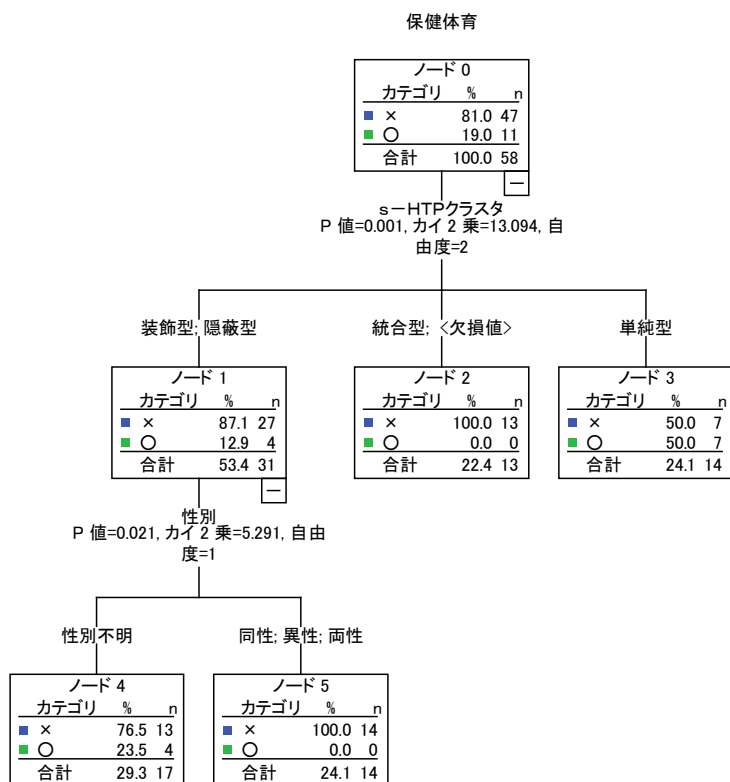


図1 保健体育教員免許取得志望の有無によるS-HTPの描画特徴

の資格では有意な関連は見られなかったが、保健体育教員免許および養護教諭免許の取得志望の有無とS-HTP クラスタとの関連が有意であった（それぞれ、保健体育： $\chi^2=12.245$, $df=3$, $p<.01$, Fisher's Exact $p=.0084$, $p<.01$ ；養護教諭： $\chi^2=11.608$, $df=3$, $p<.01$, Fisher's Exact $p=.0038$, $p<.01$ ）。それぞれのクロス表を表6および表7に示す。残差分析の結果、保健体育教員の免許取得を志望する群は単純型のS-HTPを作成する者が有意に多く、統合型のS-HTPを作成する者が少ない傾向($p<.10$)が見出され、養護教諭の免許取得を志望する群は、単純型のS-HTPを作成する者が有意に少ないが、装飾型のS-HTPを作成する者が有意に多いことを見出された。

さらに、保健体育教員免許および養護教諭免許の取得志望者についてS-HTPの描画特徴を詳細に検討するために、取得志望の有無を従属変数、S-HTP クラスタおよび各評定項目を独立変数とした決定木分析(Exhaustive CHAID法)を行った。分析の際、カイ二乗検定をベースとした分析であることを考慮して、ノードの構成人数を最低10名以上となるようにし、そして総合的・全体的評定であるS-HTPクラスタを優先的に

選択されるように設定した。分析の結果、保健体育教員免許の取得志望者については(図1参照)、単純型のS-HTPを作成する者が有意に多く(ノード3)、統合型のS-HTPを作成する者が有意に少ないこと(ノード2)と、隠蔽型・装飾型の場合、性別が不明である人物像を描くことが有意に多いこと(ノード4)が見出された。また、養護教諭免許の取得志望者については(図2参照)、単純型のS-HTPを作成する者が有意に少ないこと(ノード2)と、隠蔽型・装飾型・統合型の場合、人物と木との間の関連が有意に見られないこと(ノード3)が見出された。

6) 同一性地位によるS-HTPの描画特徴

同一性地位によるS-HTPの描画特徴の差異を検討するために、同一性地位クラスタを従属変数、S-HTP クラスタおよび各評定項目を独立変数とした決定木分析(Exhaustive CHAID法)を行った。分析の際、カイ二乗検定をベースとした分析であることを考慮して、ノードの構成人数を最低10名以上となるようにした。また、当初の分析では

総合的・全体的評定であるS-HTPクラスタを優先的に選択されるように設定したが、選択結果が有意ではなかったため($\chi^2=5.301$, $df=3$, ns)、設定を解除して分析を行った。最終的な分析結果を図3に示す。有意性の確認のため残差分析を行ったところ、家にドアを描かない者が早期完了群で有意に多く(ノード1)、課題以外の付加物を地面も含めて描かない者が同一性達成群で有意に多く(ノード3)、家に煙突を描き加える者が同一性拡散群で有意に多く(ノード5)、モラトリアム群で有意に少ないこと(ノード6)が見出された。

IV. 考察

1) 資格志望と同一性地位

資格志望の学生は、大学で資格を取得し、その職業に就くことを目指していると考えられることができる。将来の目標を明確にして入学しているのであり、アイデンティティが確立していると予測した。宮下らは職業に対する価値意識と自我同一性について研究し、「自我同一性と職業的同一性は職業に対する価値意識(職業を重視するか否か)にかかわらず密接に関連している」と述べている。つまり、職業的同一性が確立している

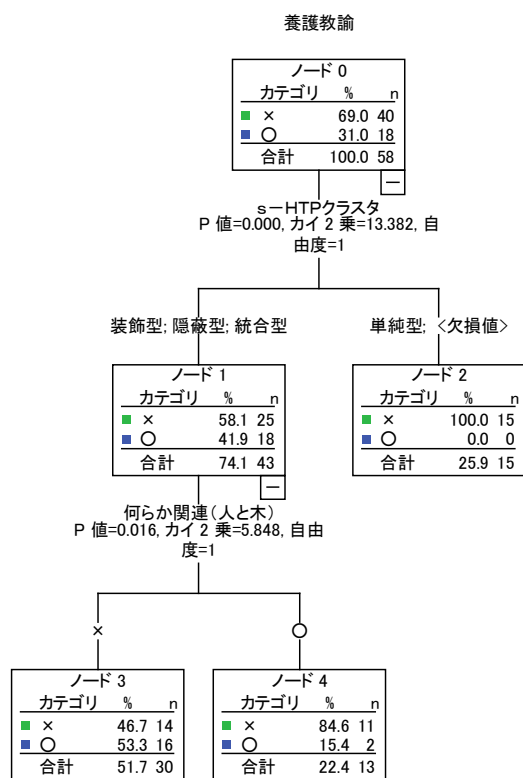


図2 養護教諭免許の取得志望の有無によるS-HTPの描画特徴

ならば、自我同一性も確立していると考えた。

資格志望とアイデンティティステータスの関係において、心理学系の資格を志望する者（以下心理学系志望者）に同一性達成地位が有意に多く、同一性拡散地位が有意に少なかった。同一性達成型は、過去の危機を経験し、現在、将来の自己投入が高い。つまり、過去に自らと向き合い、進路や自分自身について悩む体験を経験し、自分の意志である一定の職業を選択して、自らの進む方向へ積極的に関与している者たちである。一方、同一性拡散型には過去の危機は経験している場合とない場合がある。前者は自らの方向を定めずに、積極的に職業を選択したり、関与したりしない者である。後者は危機を経験することが困難であり、将来についても考えることができず、積極的に関わっていない者である。つまり、自分が何者であるか、何ができるかということに迷うことができなかつたり、迷ったが、何も見いだせなかつたりしたために、現在や将来の目標に積極的に関与することができない、いわば自分自身を見失った状況にある。心理志望者は過去に「自分とは何か」、「何ができるのか」等の悩みを通して将来の目標を見出し、その目標に向かって積極的に関わっているととらえることができる。

また、養護教諭を志望する者（以下養教志望者）に

早期完了型が多い傾向が見られた。早期完了型は、意思決定を行う危機的な時期を経験していないが、両親や権威の期待と目標をそのまま受け入れて、その目標に積極的に関与する状態にある。しかし、進路選択の理由について検討すると、自分が出会った養護教諭をモデルに将来像を考えている者が養教志望者の10人（52.6%）であり、親が教員だからという者は1人（0.05%）であった。つまり、両親の目標を受け入れたと言うよりは、自分自身について考える思春期以前に悩んだり、迷ったりすることなく進路を決めていると考えられる。本来の早期完了とは違っているが、悩まずに進路決定をしたという点は同じである。

2) S-HTPのクラスタリング

S-HTPのクラスタリングは「単純型」、「隠蔽型」、「装飾型」、「統合型」の4パターンに分類された。

「単純型」は、絵は羅列的で付属物も乏しく、与えられた課題のみを描いている。このような絵は意欲の乏しさや情緒面の平板さを示していると考えられ、情緒的に未発達の状態にあるととらえることができる。

「隠蔽型」は、描画領域が小さく、人物像が記号化された線画ではないものの顔を描いておらず、人物の簡略化に特徴がある。このような絵について、高橋は「テストに対する自己防衛的な態度や警戒心を表している。と同時に、このような人物画を描く者は、人間関係において不安感をもち、自己概念（自分とは何かということについての認知）を確立しておらず、他人に対する敵意をもち、人間関係を避けようとしていることに留意しなくてはならない」¹⁵⁾と述べている。つまり、自己概念が曖昧であり、対人関係においても回避的であるが、ある程度、自己防衛できる力は持っていることととらえることができる。

「装飾型」は草花、太陽という付加物が描き加えられているのが特徴である。絵を統合的に描くためには、付加物を描き入れて課題をまとめることは一つの手段となる。付加物について、三上は「パーソナリティの豊かさや積極性を反映するもの」¹⁶⁾と述べている。また、付加物は発達段階によって差が見られ、三上によると、小学校までの段階では、雲、太陽、草花、動物などの身近な自然を描くことが多く、中学以降は山、道、囲いなど、遠近感を加えるのに役立つような付加物が増える¹⁷⁾。草花や太陽は身近な自然であり、発達のにとらえれば、「装飾型」は思春期前の段階の心性にあるととらえることができる。また、草花、太陽とも温かさや明るさを示すものである。絵を飾りたてたり、華やかさを加えたりする効果が期待できる。統合にまで至らない絵に付加物を描き加えることで、補おうとする意図があるのではない。

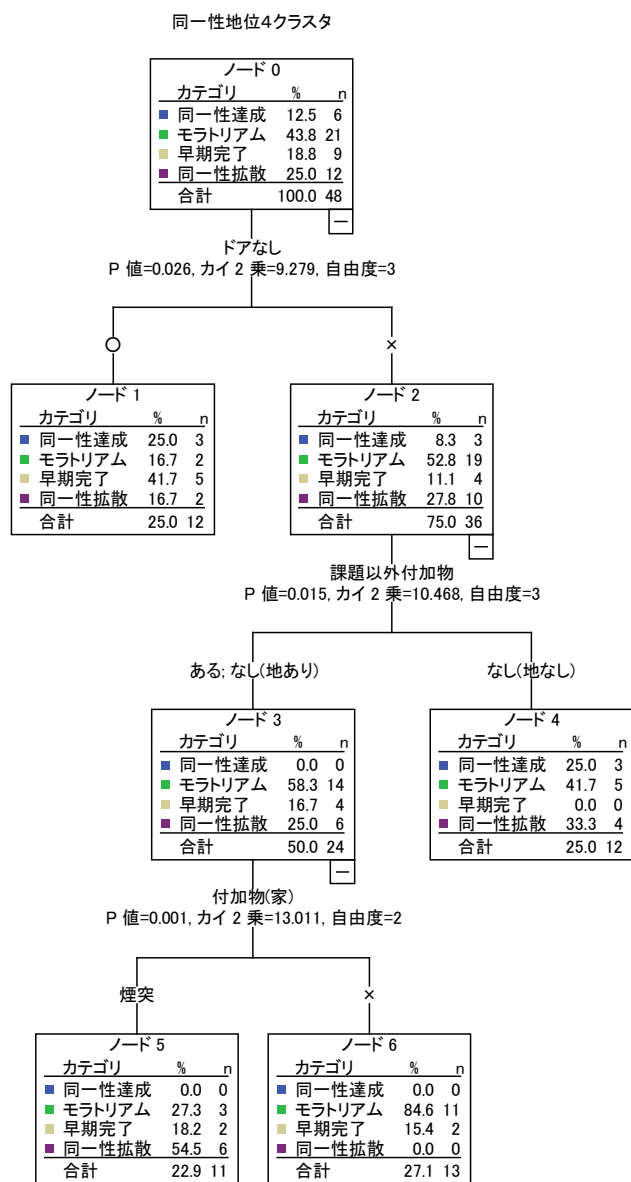


図3 同一性地位クラスと S-HTP の描画特徴との関連

「統合型」は遠近感があり、バランスがとれており、構成も調和がとれている。巧拙はあるにせよ、成熟した大人が描く絵と言えよう。

絵画は発達に伴い、幼児期のなぐり描きから美術へと変化していく。高橋は①なぐり描き、②象徴画、③図式画、④写実画へと変化すると述べている¹⁸⁾。その変化を利用して Goodenough, F. は人物画によって知能を測定する DAM テストを開発している。また、HTP 法を創始した Buck, J. N. も HTP 粗点 G 率による HTP-IQ を算出して知能の測定も実施していた¹⁹⁾。

高橋は成人については HTP-IQ には描画の巧拙という要因が関与する可能性を指摘し、「描画テストから成

人の知能を知るには限界がある²⁰⁾と述べている。また、「被検者の年齢と描画を考察し、被検者の知的面に限らず、情緒面や社会的な成熟度を明らかにすることができる²¹⁾と述べている。つまり、成人については、描画の変化は知的能力の発達よりも情緒的・社会的な成熟を示すのではないか。

三上は幼児から大学生に S-HTP 法の変化を研究し、「大きさのバランスを含めて、描画全体の調和がさらに増すとともに、成人になるに従い男女関係や仕事をテーマにした絵が目立つようになる²²⁾と述べている。描画全体の調和が取れてくるとは、情緒的な安定を示し、テーマの変化は社会的成熟を示していると考えられる。

このような観点から考えると、S-HTP 法における構成の変化は、情緒の発達ととらえることができ、「単純型」から「隠蔽型」、次に「装飾型」、さらに「統合型」へと移行していくと考えられる。

資格別に見ると、「単純型」は保健体育教員を志望する者（以下保体志望者）に、「装飾型」は養教志望者に有意に多く見られた。アイデンティティ地位との関連から考えると、「装飾型」が有意に多かった養教志望者は早期完了型が多い傾向が考えられる。養教志望者は過去の危機を経験しないために、思春期前心性に留まっているのではないだろうか。

3) 資格志望別の特徴

①養護教諭を志望する者

養教志望者では、前述したように、進路決定の時期が早いこと、S-HTP 法の構成が「装飾型」であること早期完了型が多いことが特徴だった。早期完了型は、S-HTP 法においてドアの欠如が有意に多かった。

他の資格志望者の多くは高校生で進路を決定しているが、養教志望者は小中学生で進路を決定している者が多い。小中学生の時期では、自らの能力、適性を的確に判断する力は十分育っていない。また、養護志望者は過去の危機を経験していないことから、自らの進路を早々に決定したので、自分と向き合ったり、進路について悩むこともなかったと考えられる。つまり、養教志望者は早期に十分な吟味も行わずに進路を決めたので、「自分とは何か」「自分は何になるのか」という問いに直面することもなく、その結果危機を経験することなく、志望通り大学に入学したと考えられる。鏝等は「この型は、『積極的関与』と『見せかけの自信』のために、一見、同一性達成型と同じように見える。しかし、この型は両親の価値観が通用しないような状況下におかれると、たちまち途方にく

れたり、混乱をきたしたりすることが予想される」²³⁾と述べている。前述したように養教志望者は両親の価値観を受けいれているわけではないが、養護教諭になるという価値観が通用しないような状況に置かれると、同様な混乱が予想される。

さらに、S-HTP法では家屋のドアが省略されている。ドアは人が出入りする所であり、内と外を繋ぐものである。高橋は「家屋のとびらは、家庭の外という環境と、積極的かつ直接的な相互作用が行われる部分であり、被検者の人間関係への態度を表す」²⁴⁾と述べている。そのドアが省略されることは、「他人を中に入れたり自分自身が外へ出ることへの強い抵抗、孤立、自己へのひきこもり(あるいは自己対象のこのような経験)を意味する」²⁵⁾とLeibowitz, M.は述べている。養教志望者は、対人関係に消極的、拒否的であり、外の世界へ出ることを拒み、現実を直視することなく、自分の世界に閉じこもる傾向が伺える。対人関係の乏しさは教員の資質としては問題となるだろう。

上記のことから、養教志望者は自らに向き合うことを過去、現在とも行わずに進路を決定し、養護教諭志望という夢への切符を握りしめているが、その夢を壊さないために、現実を避けることで安定しようとしているととらえることができる。大学での学びの中でどのように現実と向き合い、今一度、自らの適性を確認する作業が必要であると考えられる。

②心理学系の資格を志望する者

心理学系志望者では、過去の危機を体験していること、同一性地位達成型が多く、同一性拡散地位が少ないことが特徴であった。

「過去の危機」は、「自分が何者か」、「何になったら良いのか」について悩んだ体験があることを示している。心理学系志望者には自己と向き合い、自己を見つめて不安定になった時期があったと考えられる。その中で、心理学に興味を持つようになったのではないだろうか。危機を体験していない養教志望者が早期に進路を決めて安定しているのに対して、心理学系志望者は、危機を体験した上で自らの進路を決定しているという違いがある。この危機を乗り越えることで、同一性地位を達成していると言えよう。しかし、「過去の危機」が特徴的であることから、危機的な状況に陥ると、悩んでしまいやすいことが伺える。また、心理学系志望者の場合、精神面にのみ偏って傾倒していくと、現実から解離してしまう危険性がある。現実と根差して精神面に目を向けることが重要であり、現実検討力を育てていくことが必要となるだろう。

③保健体育教員を志望する者

保体志望者では、「単純型」のS-HTPが有意に多かった。このことから、前述したように情緒の未熟さが伺える。また、検査に対して抵抗があり、受動的・機械的に応じた可能性もあるが、それも情緒面に触れることへの抵抗感、拒否感があったのではないだろうか。体操、フィギュアスケートなど、見せることが重要なポイントとなるスポーツでは、表現力やそれを支える情緒的な豊かさは必要であるが、それ以外のスポーツでは不要であろう。むしろ、プレッシャーのかかる場面でも動揺せずに冷静に競技を行うような精神面の強さが望ましいとされるだろう。

しかし、教員の場合、児童・生徒を理解することは必要不可欠なことである。他者の気持ちや感情を理解するためには、自分自身の気持ちや感情に目を向けなければならない。また、自分の気持ちを的確に表現することも必要である。保体志望者には情緒的な豊かさや共感性を育むことが必要となるだろう。

IV. 提言

養教志望者は、自分と向き合い、教員としての適性があるかどうか判断する力を養わなければならない。そのため、早い段階で学校現場を参観したり、ボランティア活動などで子どもと関わる機会を与えることが有効と考える。また、職業適性検査を実施し、客観的に適性を測ることも必要ではないか。同様に、心理学系志望者も精神面へ傾倒しすぎる危険を回避するために、社会的な活動や仕事を体験する機会を与えることが必要である。

教員は対人援助を行う仕事であり、児童、生徒とかわかることが仕事である。それゆえに、養教志望者は、対人関係の乏しさや引きこもり傾向を克服しなければならない。また、保体志望者は共感性を高めることが課題になる。そのため、グループワーク、SST、アサーション等の体験型の学習を通して、対人関係やコミュニケーション能力を高めることが有効であると考えられる。

また、養教志望者と心理学系志望者は現実の壁にぶつかった場合、精神的に危機状況に陥る可能性が高い。前述したように、養教志望者は現実を直視することを避けて防衛しているので、それが不可能になると危機に陥りやすい。例えば、養成科目の単位が取得できなかったり、実習をこなすことができなかったりして、資格習得が困難となった場合である。心理学系志望者は精神面へ傾倒しているため、現実と遊離してしまう危険がある。それゆえに、予防的なアプローチとしてストレスマネジメント、自尊心の向上などの心理教育を実施したり、精神的な危機に陥った時のサポート体制を構築することが必要である。

おわりに

資格志望別の学生の特徴を検討し、それに基づいた今後の指導、支援について提言を行った。今回は本学の1回生のみを対象としたので、この特徴が一般的な傾向なのか、本学の1回生に特有のものかどうかは十分検討することができなかった。他学年の学生への調査及び追跡調査を行うことを今後の課題としたい。

本研究が学生のニーズに応えるための一歩となれば、幸いである。

【引用・参考文献】

- 1) 横山広美：大学の役割とは 学術研究フォーラム編『大学はなぜ必要か』 NTT出版 2008 p15
- 2) 毎日新聞夕刊 2011年1月6日
- 3) 片桐新自：不安社会の中の若者たち—大学生調査から見るこの20年 世界思想社 2009 p27
- 4) 河合塾：第3回全統マーク模試からみた受験生の志望動向
www.kawai-juku.ac.jp/news/data/20101207.pdf
2010年12月7日
- 5) 青山桂子・市川朱里：青年期におけるアイデンティティの感覚と統合型HTPの描画特徴 心理臨床学研究 Vol.24 No.2 p232-237 2006 日本心理臨床学会
- 6) 宮下一博・爲川裕之：青年の職業に対する価値意識と自我同一性 千葉大学教育学部研究紀要. 第1部 39, 111-116, 1991-02-28 千葉大学
- 7) 下村雅昭：養護教諭養成課程を希望する学生の志望動機と養成科目に対する関心度 京都女子大学生生活福祉学科紀要 (6), 19-22, 2010-02
- 8) 池上徹：養護教諭志望学生のジェンダー意識：私立大学における教職科目での調査から 関西福祉科学大学紀要 11, 205-216, 2008-03-05 関西福祉科学大学
- 9) 白尾秀隆・今林俊一・川畑秀明：教員養成学部生の進路選択に対する自己効力
鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 15, 157-164, 2005-11-28
- 10) 加藤厚：大学生における同一性の諸相とその構造 教育心理学研究 31 292-302 1983
- 11) 三上直子：S-HTP法—統合的HTP法による臨床的・発達のアプローチ 誠信書房 1995
- 12) 前掲書 11に同じ
- 13) 三沢直子：描画テストに表わされた子どもの心の危機—S-HTPにおける1981年と1997~99年の比

較 誠信書房 2002

- 14) 前掲書 5に同じ
- 15) 高橋雅春：描画テスト入門—HTP テスト— 文教書院 1974 P88-89
- 16) 前掲書 11に同じ p25
- 17) 前掲書 11に同じ p25
- 18) 高橋雅春：HTTPテスト 家族画研究会編『臨床描画研究 I』所収 金剛出版 1986 p59
- 19) 前掲書 18に同じ p59
- 20) 前掲書 18に同じ p59
- 21) 前掲書 15に同じ p17
- 22) 前掲書 11に同じ p193
- 23) 鑪幹八郎、山本力、宮下一博編：アイデンティティ研究の展望 I ナカニシヤ出版 1984 p71
- 24) 前掲書 15に同じ p54
- 25) Leibowitz, M: Interpreting Projective Drawings - A Self Psychological Approach Brunner/Mazel 1999 (邦訳 菊池道子、溝口純二訳「投影描画法の解釈—家・木・人・動物」 誠信書房 2002) p37